

令和5年3月17日

◎大石委員長 ただいまから総務委員会を開会いたします。

(9時59分開会)

◎大石委員長 御報告いたします。15日の委員会におきまして上田委員から警察本部会計課の質疑の中で依頼をしておりました資料の提出がありましたので、各委員の皆様へ配付しておりますので御確認をお願いいたします。

それでは、本日の委員会は委員長報告の取りまとめについてであります。

お諮りいたします。委員長報告の文案についてはお手元に配付してありますので、この内容の検討をお願いいたします。

それでは、報告書案を書記に朗読させます。

◎書記 総務委員会が付託を受けた案件について、その審査の経過並びに結果を御報告いたします。

当委員会は、執行部関係者の出席を求め、慎重に審査いたしました結果、第2号議案から第7号議案、第19号議案、第24号議案から第29号議案、第39号議案、第43号議案から第47号議案、第50号議案、第61号議案から第63号議案、第69号議案から第71号議案、以上26件については全会一致をもって、第1号議案、第48号議案、以上2件については賛成多数をもって、いずれも可決すべきものと決しました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

初めに、総務部についてであります。

第1号「令和5年度高知県一般会計予算」のうち、地域活性化支援事業費補助金について、執行部から、補助金の財源に、クラウドファンディングによるふるさと納税の寄附金を活用して、NPOなどの民間団体が行う地域活性化の取組を支援するものであるとの説明がありました。

委員から、補助対象事業が魅力的でなければ寄附金は集まらない。そうすると、補助対象事業の計画認定が非常に重要であると考え、認定における体制はどうかとの質疑がありました。

執行部からは、計画認定においては、県職員だけでなく、NPO法人の立ち上げ支援などに取り組む団体からも審査員を選定し、公平性や公益性を確保していくとの答弁がありました。

さらに委員から、補助対象事業を認定するに当たり、こういった観点を重視するののかとの質疑がありました。

執行部からは、地域で様々な活動を行う団体が、その地域に関わろうとする姿勢などをしっかり審査した上で認定していきたいとの答弁がありました。

別の委員から、クラウドファンディングによるふるさと納税の寄附金が集まるというこ

とは、言い換えれば高知県の魅力的な取組を情報発信できることであり、大変意味のあることである。ついては、サイトを運営している専門家の意見も聴取するなど、高知県の取組が全国に響くようなやり方や資金調達の在り方などの研究を求めるとの意見がありました。

次に、「県庁ワークスタイル変革プロジェクトの推進」について、執行部から、効率的な業務を遂行するために、場所や紙にとらわれない働き方の推進や、抜本的な業務の再構築により、職員の現場主義に基づく働き方改革の実現を図るものであるとの説明がありました。

委員から、新たな取組において生じる課題をどう捉え、対応していくのかとの質疑がありました。

執行部からは、モデルとなる職場では、フリーアドレスなどを採用することとしているが、職員一人一人の業務管理の難しさや、同じチーム内での職員間のコミュニケーションが取りづらくなるという弊害も出てくると想定しており、課題と捉えている。そのため、コミュニケーションを取る時間を設ける取組や、業務に集中して取り組む席の設置など、課題に対応するとともに新しい仕事の仕方のメリットを生かしていきたい。また、デジタル化により人間関係を軽んじることのないよう意識して取り組んでいくとの答弁がありました。

次に、「市町村業務改善支援事業委託料」について、執行部から、自治体の2040年問題に向けて、ICT活用によるスマート自治体への転換を図ろうとする市町村を支援しようとするものであるとの説明がありました。

委員から、デジタル技術等を活用して業務の効率化を推進することにより、職員を減らすことが目的化される懸念があるかと考えるがどうかとの質疑がありました。

執行部からは、この事業の実施に当たっては、職員を減らすことを前提にするのではなく、より住民サービスの向上につながる仕事に職員を相対的に振り向けていくという考えの下、業務の効率化をしっかりと重視して取り組んでいくとの答弁がありました。

さらに委員から、市町村への支援の際には、自治体における人と人との関わりの重要性をしっかりと伝えながら、支援を実施してほしいとの意見がありました。

次に、各種選挙における投票率についてであります。

委員から、高知県は全国の中でも若者の投票率が低いことが課題である。投票に行かない理由として、投票所の投票環境が挙げられる。ずっと同じ立会人に会うことや、近い距離で監視されることが嫌で投票に行かない若者が多いと聞く。投票率を上げるためには、どこに原因があるのか、具体的に若者に聞き取ることが大事だと思うがどうかとの質疑がありました。

執行部からは、アンケートを取るなど、投票率が上がらない要因をしっかりと分析して改

善に向けて取り組んでいく。また、投票環境に関しては、市町村とも協議をして改善できることはないか検討していきたいとの答弁がありました。

別の委員から、投票率を上げるためには、政治に関心を持ってもらうことが非常に大事だと思うが、例えばアニメとコラボするなど、新たな手法での啓発等も検討するべきではないかとの意見がありました。

次に、教育委員会についてであります。

教員不足への対応についてであります。

委員から、教育行政として教員の確保は最低限できていないといけない問題だが、現時点で新年度の着任が難しいような実態はあるのかとの質疑がありました。

執行部からは、今年度は年度当初に配置できていないものはなかったが、来年度については現時点では小学校、中学校で30人程度の教員が予定よりも足りていない。これから臨時講師の掘り起こしの声かけを行い、教員を配置したいとの答弁がありました。

さらに委員から、教員の不足は大きな問題だが、解決するためにどのようなことを考えているのかとの質疑がありました。

執行部からは、高校生や大学生に、高知県で教員になることの魅力を伝えて、教員を目指す学生を増やす必要があるとの答弁がありました。

別の委員から、教員不足の解消に向けて幅広く人材を集めるとしても、現場では先生の一声で子供の人生が変わってしまうこともある大事な仕事であり、誰にでもできるわけではないので、採用に当たっては、しっかりと人選してほしいとの意見がありました。

別の委員から、教員はストレスも多いと思うので、教員のメンタルヘルス対策にはしっかり取り組む必要があると思うが、どのような仕組みを考えているのかとの質疑がありました。

執行部から、先生が元気に学校に出てきて、子供たちと日々懸命に勉強してもらえよう、教育委員会内部に設置しているプロジェクトチームにおいて、メンタルヘルスをテーマに対応策を考えていくことを計画しているところであるとの答弁がありました。

次に、県立高校等における備蓄物資についてであります。

委員から、行政監査において、複数の所属で保存期間が過ぎた物資を保管していることが判明した。行政監査の指摘を受け止め、どう対応したのかとの質疑がありました。

執行部からは、備蓄物資については、賞味期限が来る前に有効活用するよう行政監査において指摘を受けたことから、各県立学校に対し備蓄物資の適切な管理と有効活用について周知徹底を依頼する文書を発出し、併せて備蓄物資の管理簿を、本課が定期的に確認するとの答弁がありました。

さらに委員から、学校の多くが地域の避難場所に指定されていることから、地域住民と一緒に有効活用できるような取組を検討してはどうかとの質疑がありました。

執行部からは、学校によっては地域住民と一緒に行う防災訓練の際に活用している事例もあり、引き続き備蓄物資の有効活用を図っていくとの答弁がありました。

次に、報告事項についてであります。

総務部についてであります。

「高知県水道広域化推進プランの改定について」、執行部から、令和3年11月に策定した高知県水道広域化推進プランについて、広域化に係る今後の方向性と、当面の取組内容やスケジュールを新たに盛り込み改定を行うとの報告がありました。

委員から、共同発注になると大手の事業者しか参入できなくなる懸念があるが、これまで培ってきた地元の事業者との連携の維持という観点ではどう考えているのかとの質問がありました。

執行部からは、地元の企業は、緊急の対応が取れることなどがメリットである。民業圧迫にならないことも重要な視点であることから、しっかりと考えながら検討を進めるとの答弁がありました。

さらに委員から、県が主体となり広域連携を進めるに当たり、経営も含めてどこまで広域化するのかということについて必ず議論になると思われるが、現状でどう考えているのかとの質問がありました。

執行部からは、現状は議論が進んでいない。本県の場合は地域ごとに事業の規模が異なるため、経営を統一するとなると、中山間地域などの小規模団体において水道料金を上げなければならないといった可能性も出てくる。しかしながら、広域化を進めていく中で、今後、経営の広域化が必要だと議論が出てくる可能性はあると思うとの答弁がありました。

さらに委員から、中山間地域での生活を守るために、経営も含めてどこかで受け止める体制が必要なら、議論は必要であり、県の将来の大きな構想も含めて議論をしていけるようなプランに仕上げたいとの意見がありました。

教育委員会についてであります。

「部活動の地域連携・地域移行に係る検討状況について」、執行部から、昨年12月27日に国から「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示されたことを受け、本県では本年度設置している部活動地域移行検討会議の名称を変更し、（仮称）部活動の地域連携・地域移行検討会議として引き続き開催し、推進計画の策定などを行う予定である。市町村においては部活動改革の協議会等を設置・開催し、地域連携・地域移行の取組による部活動改革を推進するようお願いしていく。今後も国の動向を注視するとともに、県内の学校部活動の地域連携や地域移行への取組状況なども踏まえ、県としての方向性を示していくとの報告がありました。

委員から、来年度から地域移行されたクラブチームが中学校体育連盟の大会に参加でき

るよう規程の改正が行われたが、現時点での運用では、県内在住であれば居住地は問わないとしていることから、大会に参加することを目的に、生徒が市町村の枠を超えて強豪クラブに所属することが可能であるという認識でよいか、またその場合、競技力優先となるのではないかと思うがどうかとの質問がありました。

執行部からは、制度本来の趣旨を踏まえると、競技力に特化した地域クラブ活動等への移行よりも、近隣の地域クラブ活動等への移行がより望ましいと考えている。この制度においては、中学校体育連盟の大会参加規程が、今後さらに地域の実情に応じたものになってくると思われるので、その動向を注視していくとの答弁がありました。

さらに委員から、制度の周知について、クラブチームをはじめとする関係者に情報が届きにくい現状がある。教育現場が大きく変化する話であり、クラブチーム側の熟度も非常に重要となってくると思われることから、周知の仕方など注意願いたいとの要請がありました。

以上をもって、総務委員長報告を終わります。

◎大石委員長 それでは御意見をどうぞ。小休にいたします。

(小休)

◎ いいですよ。大変よくできてますね。

◎大石委員長 正場に復します。

この報告書を当委員会の委員全員をもって提出することとし、細部の文案の調整は正副委員長一任でよろしいでしょうか。

(異議なし)

◎大石委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

次に、閉会中の継続審査の件を議題といたします。

お諮りいたします。当委員会では閉会中も継続して審査並びに調査をしたいので、お手元に配付してある案のとおり申し出ることについて御異議ありませんか。

(異議なし)

◎大石委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

次に、出先機関の業務概要調査についてであります。

12月定例会でいただきました御意見をもとに、令和5年度の出先機関等調査の日程案を作成しましたので、お手元にお配りしております。なお、教育委員会から幼児教育の現場をより理解いただくために、保育所等2か所の推薦があり、調査を実施することとしております。

それでは、このことについて協議したいと思います。御意見をどうぞ。

小休にします。

(小休)

(なし)

◎大石委員長 正場に復します。

それではこの日程案により次年度の委員会へ申し送ることとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

◎大石委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

次に、県外調査についてであります。

自動車安全運転センター安全運転中央研修所の調査につきましては、昨年12月の当委員会において協議いただき調査の実施には至りませんでした。お配りしている資料のとおり、総務委員長宛ての調査依頼があつていること、あわせて、高知県の交通安全対策の検討に当たり調査することが非常に有益な施設であると考えております。つきましては、お手元の文書につきまして、要請を受けた我々の手元で留め置くのではなく、次年度の総務委員会に申し送るようにしたいと思いますが、そのような扱いとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

◎大石委員長 それでは、自動車安全運転センター安全運転中央研修所調査依頼文書については、次年度の委員会へ申し送ることといたします。

以上をもって日程は全て終了をいたしました。

委員会終わりということで、御挨拶をさせていただきたいと思います。本日で1年間の総務常任委員会が終わりました。本当にありがとうございました。この委員会は本当に重鎮の方ばかりで決算委員会もほぼ同じメンバーということで、1年間本当に濃密な議論ができたのではないかと思います。特に、出先のときの、西土佐分校とか、あるいは高校の図書室、こういうところで本当に会派の枠を超えて、非常に高知県に対する危機感を共有できたのではないかなと思います。3年ぶりの調査出張でも、特に初日の夜、大変闊達な議論ができたというのは、私も本当に心に残った1年間でありました。この議会をもって退任される方も、この委員会に多くおられますので、本当に心からのこれまでの感謝も申し上げまして、私の委員長としての最後の御挨拶とさせていただきます。そして、事務局のお2人に大変お世話になりました。感謝を申し上げまして、最後の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

◎野町副委員長 皆さんどうも、1年間御苦労さまでございました。副委員長として本来、大石委員長を補佐してしっかりとやらなければならないところ、体調不良ということで皆

さん方に、個人的に御心配をかけまして、大変申し訳ございませんでした。しかしながら、皆さん方の支えのおかげで委員会にも復帰し、そしてまた、次期に向けての戦いにも参戦をするということで、取組をさせていただいております。本当に感謝を申し上げます。これから、勇退をされる方、本当に御苦労さまでございました。また、高所大所から御指導もいただきたいと思っておりますし、ほかの皆様方につきましては、共にしっかりと戦い、次期同じ仕事を共にできればと思っております。本当に1年間御苦労さまでした。ありがとうございました。

◎大石委員長 副委員長のおかげで何とかできました。

これで、委員会を閉会いたします。

(10時18分閉会)